

既存排水機場等の効果 淀川水系宇治川 [大島排水機場]

○大島排水機場では、平成29年10月22日8時～23日11時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量59万m³の内水**を排出。

■大島排水機場の位置・全景



■堂の川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量59万m³の内水**を排出し、堂の川の水位が**約2.8m低下**、浸水面積が**約32ha**、浸水家屋が**約750戸減少**。



■大島排水機場の役割

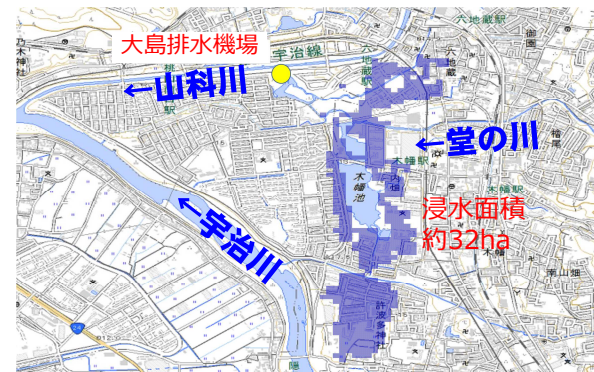
大島排水機場は、堂の川の内水排除を目的として昭和41年度から昭和43年度にかけて建設され、昭和43年に3.0m³/sのポンプが設置され稼働を開始しました。

その後、昭和49年度に新たに3.0m³/sのポンプ1台が増設され、**合計排水能力6.0m³/s**の排水機場として現在に至っています。

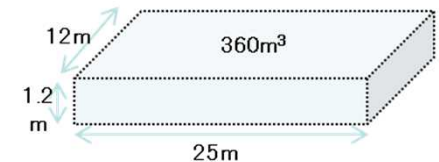
昭和49年度から稼働している大島排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。

大島排水機場は、山科川洪水の堂の川への逆流を防止するとともに、堂の川の流水を山科川へ排水することで、宇治市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが無かった場合の浸水被害



排水量 **59万m³** 25mプール
 1,639杯分



※速報値であり、今後変わる場合があります。